

## アルゴリズム 第9回 学習ノート

KCS北九州情報専門学校

1

### 演習1

植物園の1週間の入園者人数が、1次元配列「TAB」に格納されている。1週間の入園者合計を、合計エリアに求める疑似言語を作成せよ。

	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
<b>TAB</b>	0	85	100	95	120	180	300	合計 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>

- 主プログラム: 合計計算
- 整数型: TAB[ 7 ] = { 0, 85, 100, 95, 120, 180, 300 }
- 整数型: i, 合計

配布

## 第3章 擬似言語

擬似言語による配列の基本操作  
(P86～)

配布

### 演習2

次に示す表の要素0番目から4番目までの合計を5番目に格納する疑似言語を作成せよ。

	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
<b>TBL</b>	50	70	85	10	55	999

- 主プログラム: 合計計算
- 整数型: TBL[ 6 ] = { 50, 70, 85, 10, 55, 999 }
- 整数型: i

配布

## 演習3

次に示す表TBLの要素の値について、奇数番目の要素の合計をKIに、偶数番目の要素の値の合計をGUに求める疑似言語を作成せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	...	(20)		
TBL	50	70	85	10	55	...	43	KI	
								GU	

○主プログラム: 合計計算

○整数型: TBL[ 1:20 ] = { 50, 70, 85, 10, 55, ..., 43 }

○整数型: i, KI, GU

配布

## 演習4

次に示す表「TA」の要素の内容を表「TB」に移送する疑似言語を作成せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
TA	50	70	85	10	55
	↓	...	...	...	↓
TB					

○主プログラム: 合計計算

○整数型: TA[ 1:5 ] = { 50, 70, 85, 10, 55 }

○整数型: TB[ 1:5 ]

○整数型: i

配布

## 演習5

次に示す表「TA」の要素の内容と、表「TB」の対応する要素の内容の和を表「TC」に移送する疑似言語を作成せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
TA	50	70	85	10	55
	+	+	+	+	+
TB	5	7	8	1	5
	↓	...	...	...	↓
TC					

○主プログラム: 合計計算

○整数型: TA[ 1:5 ] = { 50, 70, 85, 10, 55 }

○整数型: TB[ 1:5 ] = { 5, 7, 8, 1, 5 }

○整数型: TC[ 1:5 ], i

配布

## 演習6

表「TAB」の要素には、整数値の0と1が格納されている。0の数と1の数を数える疑似言語を作成せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	...	(100)
TAB	0	1	1	0	...	1

○主プログラム: 合計計算

○整数型: TAB[ 1:100 ] = { 0, 1, 1, 0, ..., 1 }

○整数型: i, 合計0, 合計1

配布

## 演習7

表「TAB」の要素には、整数値が格納されている。記憶領域「SU」と同じ値の要素の数を数える疑似言語を作成せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	...	(100)
TAB	35	10	5	100	...	15
SU		10				
KOSU						

○主プログラム:合計計算

○整数型: TAB[ 1:100 ] = { 35, 10, 5, ..., 15 }

○整数型: i, SU = { 10 }, KOSU

配布